



リニア立ち木トラストの桑畑で剪定と名札付作業

しばらくぶりに晴天が戻った9月25日(日)午前、山梨県中央市極楽寺の桑畑に地元の方と東京・神奈川連絡会から参加した3人を含む13人が集まり、地主の内田 学さん(中央市リニア対策市民の会代表)の指導・説明のもと、500本余りの桑の木の剪定(枝切り)と、所有者の名札の付け替え作業を行いました。

この日は気温30度を越え、参加者は帽子、長そでシャツ、軍手と完全武装、剪定バサミを手にまず2メートルまで延びた桑の木の枝を切り、ひと休みしてから地面にへばりつくようにして、一本ずつ針金で所有者の名札を木の根元に取り

つけました。途中、近くの内田さんのご自宅

で車座になって昼食を取りました。作業は午後2時に終了し、桑畑は見違えるようにすっきりしました。内田さん話では、「剪定は定期的に行う必要があり、また害虫駆除など日常的な世話が大変だ」ということでした。頭が下がる思いでした。

気持ちの良い汗を流しました。皆さんも是非参加をお願いします。

(写真・文 東京・神奈川連絡会・天野捷一)

